



世界で最先端の胚の着床前診断を発表

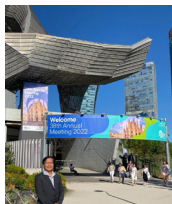
7月3日から6日まで、イタリアのミラノでパンデミックの後は初めてとなるヨーロッパ不妊治療学会が開催されました。世界中から約1万1千人が来場し、日々の研究でその結果が認められた特別の医

師や研究者による発表が行われました。ブラジルからはフェルチクリンの中野医師の研究チームが招待され、この約3年で行われてきた世界でも最新の受精卵(胚)の染色体検査について報告を行いました。

● 胚の染色体検査とは

体外受精で胚を子宮に移植しても妊娠が成立せず、流産を繰り返すような場合があります。そのような不育症の原因は様々がありますが、隠れた染色体異常が原因となっている場合もあります。また、ダウン症のような先天異常の原因は染色体異常であることもよく知られています。そのため、近年の体外受精では、胚の段階で染色体検査も行われるようになってきました。

現在主流となっている胚の染色体検査は、体外受精で得た受精卵から細胞を採取します。発育に支障のない部

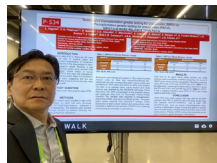


《不妊治療学会の開催されたミラノの会場前で中野医師》

分からごく少量、数個の細胞を採取し、正常な染色体の受精卵を子宮に移植し、妊娠するのを待ちます。

● 細胞を採取しない胚の染色体検査

胚の染色体検査はさらに研究が進み、中野医師のチームは、3年前から受精卵の細胞を採取しない方法での検査を行うようになりました。胚の水分に出た染色体を採取してコンピュ



《学会での中野医師》

ーターで解析するという方法です。中野医師はこの方法をパンデミックの始まる一年前から始めていましたが、検査には海外から輸入した機材などが必要で、その到着が滞り、しばらくの間はこの検査が行えなくなっていました。また、対面での検査も行えない時期が続きましたが、昨年からは再開されるようになりました。

この検査法はまだ始まったばかりで普及していないため、従来の検査に比べて費用が高いのが難点です。しかし、2、3年後にはこの方法が世界的にも一般的になると考えられています。

※『フェルチクリン』の中野英二医師に解説していただきました。

フェルチクリン FERTICLIN

Av. Indianópolis, 1960 - Planalto Paulista - São Paulo - SP

Tel: (11) 5581-2045 / 5581-3566



(11) 99666-1455

www.ferticlin.com.br / contato@ferticlin.com.br

